

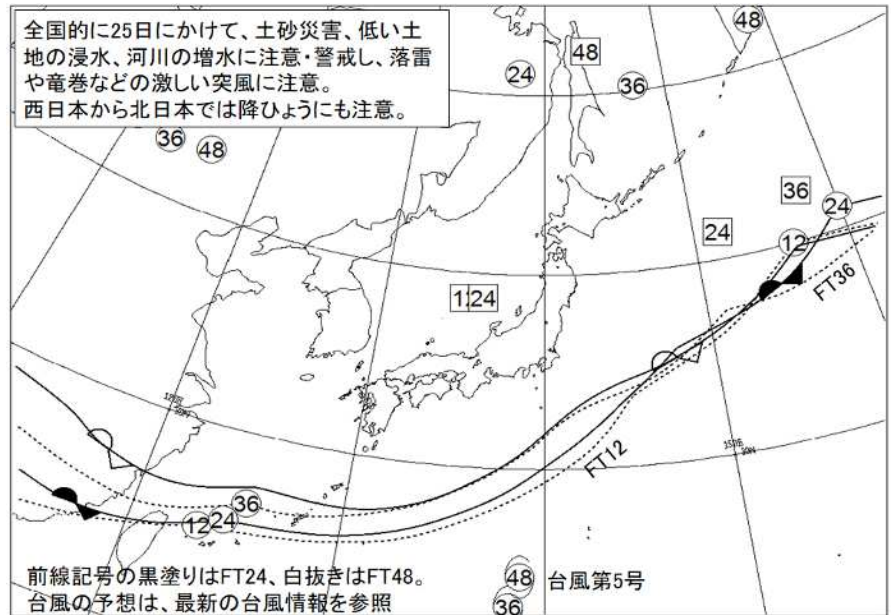
1. 実況上の着目点

① 梅雨前線が華南～南西諸島を通り日本の東へのびており、前線上の東シナ海に低気圧があつて東進。前線や低気圧に向かって下層暖湿気が流入、前線活動が活発で発雷を検知、海上で非常に激しい雨を解析。

② 日本海には 500hPa -15°C以下の寒気を伴う寒冷渦があつて東進。寒冷渦周辺の5760m付近のトラフが西日本を東進。一方、日本海と日本のはるか東の2つの高気圧との間が気圧の谷となり、西日本から北日本には下層暖湿気が流入。

大気の状態が不安定、所々で対流雲が発達、発雷を検知。局地的に激しい雨や非常に激しい雨を解析。

③ 台風第5号がマリアナ諸島を北上中。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

① 1項①の前線は26日にかけて南西諸島付近をゆっくり北上。前線や1項①の低気圧に向かって850hPa相当温位345K以上の下層暖湿気が流入、前線活動は活発な状態で、沖縄地方では25日にかけて雷を伴って激しい雨の降る所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。落雷や突風にも注意。南西諸島では26日も雷を伴って激しい雨の降る可能性がある。

② 1項②の寒冷渦は、24日夜から25日にかけて北海道を通過、北日本には500hPa -15°C以下の寒気が流入する。また、寒冷渦周辺の500hPa 5760m付近には-12°C以下の寒気を伴うトラフが24日に本州付近を通過。後続するトラフが24日夜には西日本へ進み、25日にかけて東日本を通過、本州付近は気圧の谷の場が続く。日中の気温上昇も影響し西日本から北日本の広い範囲で25日にかけて大気的不安定な状態が続く、局地的に非常に不安定となり、激しい雨や非常に激しい雨の降る所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。西日本から北日本の大気的不安定な状態は、上空寒気が残る影響で26日も続く見込み。

③ 台風第5号は、26日には小笠原諸島に接近し、非常に強い風が吹き大しけとなるおそれがある。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSM基本とし、降水分布等はMSM、LFMも参考とするが、前線近傍の局地的な雨の強まりや不安定性降水の表現には不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠] ①大雨ポテンシャル(18時からの24時間)：沖縄120、関東甲信100mm。2項の短時間強雨に注意。②波浪(明日まで)：高い所はない。③高潮(明日まで)：大潮の時期。南西諸島から東日本で注意報基準を超える所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「台風第5号に関する全般気象情報」を17時頃発表予定。